

モデルプログラム M-4 現場における実践—小学校日本語教室での教育実習—
初期段階の文型中心の指導の場合

ねらい	教育現場（小学校の日本語教室）で日本語を教える体験を通して、授業実践力を向上させ、自らの実践を省察できるようになる。
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員（管理職含む） <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input type="checkbox"/> 日本語支援員/母語支援員
経験（日本語指導・外国人児童生徒教育）	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input type="checkbox"/> 1年目 <input type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5年-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input checked="" type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える/変わる力（多文化共生社会の実現） <input checked="" type="checkbox"/> 変える/変わる力（教師としての成長）
主な内容	M 現場における実践 I 日本語指導の計画と実施
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input checked="" type="checkbox"/> 実習
時間	90分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 日本語指導の目標と授業の流れを確認する。(10分) ・指導計画の作成(I)	1. 日本語指導の目標、ねらいを参加者相互に確認する（実習参加者については備考を参照のこと）。 ・指導案で、本時の目標、本時の流れを確認する。 ・授業者から注目して観察してほしい点を伝える。
2. 授業を実施し、日本語指導の実際、学習支援の方法に気づく。(45分) ・現場での実践(M) ・実践記録の作成と振り返り(M)	2. 授業を実施する（参観・記録する）。 1) 授業者は日本語学級で授業を行う。 授業前に児童の参加状況に応じて進めることの重要性を確認しておく。 2) 授業者以外の者は次の点を記録しながら参観する。 ・授業展開の実際 ・発問、指示、説明、板書、ことばがけ等の教師の動き ・子どもの発話、行動、参加態度など ◇講師も授業場面をメモし、授業後の話し合いやその後の講評で解説できるようにしておく。
3. 日本語指導と学習支援の方法、効果について検討する。(30分) ・省察的実践家(N) ・児童生徒の学び(M) ・授業時の支援・対応について(M) ・担当教員・関係者から得た情報(M) ・作成した指導計画について(M)	3. 参観の記録等をもとに、児童の学習参加の様子と教師の指導の仕方や支援について検討する。 1) 目標の達成について：授業全体の流れ、各活動への子どもの達の参加の状況を振り返り気づいた点を発表し、目標がどの程度、どのように達成できたかを話し合う。 2) 日本語指導について、目標の達成度に照らしつつ、次の観点で意見を交換する。 ・意味と形式の関係をわかりやすく指導ができたか：語彙・文型等の導入 ・言語の形式を正しく理解する練習ができていたか：文型練習 ・運用する活動が適切であったか：ロールプレイ、タスク活動等のデザイン 3) 児童の状況に応じてどのように支援していたか話し合う。 ・児童がどこで躓いていたか、何が理由か。 ・躓きに対してどう対応したか。その効果はどうであったか。 4) 上記の話し合いをもとに、指導計画をどう修正するか考える。

<p>4. 講師および日本語教室担当教員から助言を受ける(5分)</p> <p>・日本語教育に関わる専門性(N)</p>	<p>4. 講師と日本語教室担当教員から授業の評価と改善のための助言を受ける。</p> <p>◇日本語教室担当教員は、児童の実態に照らして、この授業の成果を評価し、助言する。</p> <p>◇講師は、授業者、観察者それぞれが、今後の実践や学習に結びつけられるように助言する。</p>
<p>備考</p>	<p>・本授業は、授業者(学生)、観察者(授業者以外の学生)、担当教員、及び講師(大学の指導教員等)の4者で構成される。</p> <p>・1については、事前に指導案を参加者全員に配布し、事前に読んでおいてもらう。</p>